

(別紙)「宝塚市行財政経営方針(案)及び財政規律(案)」に対するパブリック・コメント手続きに基づく意見募集の結果一覧表  
(宝塚市行財政経営方針(案)に対するご意見)

※ ご意見ありがとうございます。

・意見の募集期間 令和3年(2021年)6月1日(火)～6月30日(水)  
・提出意見件数 9件

No.	項目	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
1		-	-	5つの方針についてはすべて連動しているため、並行して進めていく必要がある項目かと思いますが、その中でも特に方針2の「組織基盤」「デジタルデータ基盤」の推進が重要と考えます。デジタル化への投資や財源不足への行財政改革のベースには、職員の意識改革や根拠に基づく政策立案が不可欠です。デジタル技術を活用し、施策や事業の成果の可視化や予測分析を行うことで、真の課題を見つけことができ、今・将来どうするべきかが見えてくると思います。根拠に基づくことで、市民のご理解も得られ、市全体として戦略的な投資ができると考えます。 行政の立場としては、方針5に掲げられている「市民視点(住民本位)」での価値の追求が重要ですが、真のニーズをつかむことで”価値”を高めることができると考えます。また、市民に対して行政サービスの価値を高めることができれば、職員が働き甲斐を得られ、好循環を生むこととなります。10年後にこの方針をにかけてよかったと、市民、職員が感じられるよう、令和5年度までの「組織基盤」「デジタルデータ基盤」の推進の強化に期待したいです。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 人口減少などによる社会構造の変化や新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民の暮らし方や価値観までもが大きく変わるなかでも、宝塚市行財政経営方針(案)に掲げる市民が日々の暮らしに豊かさを実感できる価値を創造していかねなければなりません。そのためには、客観的根拠に基づいた政策立案(EBPM)の推進や、実施する施策などにおいて、成果を重視して限りある資源を適正に配分していくことが重要であり、データの収集、蓄積、分析、可視化の機能を持つ基盤の構築と、データの有効活用に関する職員意識の向上に早急に取り組み、市民等への説明責任を果たしていく必要があります。 頂いたご意見を踏まえ、今後具体的な取組を行動計画として策定し、取り組んでまいります。	いただきましたご意見等について、宝塚市行財政経営方針(案)の見直しには至りませんが、方針に基づく行動計画の策定および実行にあたっては、ご意見の趣旨を十分に踏まえて進めてまいります。
2	全般に関すること	-	-	コロナ禍を経験し自治体運営においてはデジタルオートメーション化の必要性、緊急性は非常に高まっていると認識しています。市民の行政手続きについて市民の利便性向上や手続きの簡素化等、前例に捉われない大胆な発想とテクノロジーを大いに活用し、積極的なイノベーションを推進して頂きたいと思います。 重要なことはイノベティブな取り組みを実証で終わらずことなく実装まできちんと昇華出来ることだと思います。 政策立案に関しては過去の経験値や他自治体の実績だけではなく、その政策に関わるあらゆるデータを収集、分析を行い、さらにAIを活用してその政策による効果を推測することで、より精度の高い政策立案が可能だと思います。 スマホに代表される世の中のデジタル化によって非常に多くのデータの収集が可能となっており、市の政策においてもこういったデータの利活用が重要な意思決定のプロセスになるのではないかと思います。 テクノロジーは非常に進化しているのでこれを行政にどう活用していくかはステークホルダーの意識改革が重要となりますのでそれに対する対応もぜひ実施して頂きたいと思います。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 時代にふさわしい行財政経営としていくため、変革に不可欠なデジタル技術やデータを経営の視点で活用していきます。そして、その活用により実現したい姿などを市民やステークホルダーと共有するとともに、圧倒的に利便性の高い行政サービスと人ならではの温かさあるサービスを融合させ、市民が日々の暮らしに豊かさを実感できる価値を創造していきます。	
3		-	-	新しい市長のもと、本気で変革に取り組む熱意を感じます。 一方で、一部の職員の方々だけで推し進めるにとどまってしまうと、実現は困難だと感じる、非常に難易度の高いものと思料します。 色んな反対意見もこれから出てくるかと思いますが、市長や上位者各位がここに込めた熱意を忘れず、しっかり全庁職員や議員の方々と共に将来像を共有しながら、実現に向けた一歩を推し進め、将来も充実した行政サービスが維持されることを、切に望みます。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 宝塚市行財政経営方針(案)や財政規律(案)に資する取組を推進するにあたっては、職員一人ひとりが内容を十分理解し、その実現に向けて行動することが最も重要です。将来像を共有するとともに、トップダウンとボトムアップが円滑に行われ、職員が積極的に行動する組織づくりを進め、時代にふさわしい行財政経営の実現に向けて取り組んでまいります。	

No.	項目	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
4		-	-	市内のDXを進めていく方向性は妥当であると感じますが、デジタル技術を使いこなせない/不安を感じている市民に対しての、不安払しょくや配慮が必要があると思いました。	【ご意見ありがとうございます。ご指摘に基づき方針の一部を改めます。】 ご指摘のとおり、DXの推進はデジタルへの対応が難しい市民にも配慮し、デジタルとアナログを効果的に融合させたサービス提供の仕組みを構築するなど、社会的包摂の考えを持って取り組む必要があります。頂いたご意見を反映し、宝塚市行財政経営方針（案）P6 時代の変化に適応し続けるための基盤づくり（デジタル・データ基盤）において、ICTの利用が困難な方への配慮についての記載を追加いたします。	宝塚市行財政経営方針（案）P6 時代の変化に適応し続けるための基盤づくり（デジタル・データ基盤）において、本文の最終段落の「これらを実現するため、デジタル・データの整備及びデータ分析のための基盤を構築します。」を、「これらを実現するため、情報セキュリティ対策を講じるとともに、ICTの利用が困難な方への配慮にも努めながら、デジタル・データの整備及びデータ分析のための基盤を構築します」に修正します。また、主な推進項目に、「④情報セキュリティ対策とICTの利用が困難な方への配慮」を追加します。
5		P6	-	【方針2-3】デジタル・データ基盤について、デジタル化やデータ活用などを推進していく上で、セキュリティや個人情報保護、データ流出などを危惧されるコメントが来ると想定されます。そのため、データ活用する上での管理などについてもコメントがあったほうが良いと感じました。	【ご意見ありがとうございます。ご指摘に基づき方針の一部を改めます。】 ご指摘のとおり、デジタル化やデータ活用の推進に当たっては、情報セキュリティに十分に配慮する必要があります。頂いたご意見を反映し、宝塚市行財政経営方針（案）P6 時代の変化に適応し続けるための基盤づくり（デジタル・データ基盤）において、情報セキュリティ対策についての記載を追加します。	
6	全般に関すること	P8	-	「職員の働きがいの創出」において、ヒトしかできない業務へシフトすることにより、市民に対しての提供できることの変化が漠然としていると感じ、変革に伴う目指すべき新たな姿やコンセプトのようなものが明確であればよいと感じました。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 職員は、ヒトしかできない業務へシフトし、市民や多様な主体との協働・共創を推進し、市民や地域にとって価値ある政策の立案につなげるなど、まちづくりのプロフェッショナルとしての役割を担うことが重要であると認識しています。今後具体的な取組を行動計画として策定し、取り組んでまいります。	いただきましたご意見等について、宝塚市行財政経営方針（案）の見直しには至りませんでした。方針に基づく行動計画の策定および実行にあたっては、ご意見の趣旨を十分に踏まえて進めてまいります。
7		P1	-	はじめに（P1）、について少子高齢化は昔からよく言われている話でもありますので、具体的にどれだけの数値が予測されているなどがあると、この後の取り組みの必要性・重要性が上がって感じられるかと存じます。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 宝塚市行財政経営方針（案）の上位計画である第6次宝塚市総合計画では「計画策定の背景と目的」において本市の年齢区分別人口の推移を示しているところです。本方針としては具体的な数値について示しておりませんが、今後行動計画の策定においては、具体的な取組を掲げるにあたり必要な統計情報等の掲載を検討いたします。	
8		-	-	DXの司令塔となるデジタル庁が推奨するシステムを使用しても、地方自治体としては帯に短しシステムとなり、現在きめ細かい市民サービスを行えている基幹システムが無駄になるだけでなく、国システム運用に無駄な労力がかかり、職員への負担が増すと予想されます。真の市民サービスと労力の削減は現在のきめ細かい市民サービスができていく基幹システムの国システムへ移行することにより喪失してしまう部分をRPA、AIなどの最新テクノロジーへの移管・検討を進めるべきと考え、DXの知識づくりにはまずは市民サービス向上を基盤とした題材を掲げてDXの方向を定めるべきと考えます。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 国が進めようとしているシステム標準化については、今後具体的な取組の検討を進めることとなりますが、システム移行により市民サービスへの悪影響が出ないように努めるとともに、RPAなどのテクノロジーを活用し業務効率化を図ってまいります。また、市民サービス向上に向けた具体的な取組については、今後策定を進める行動計画で明らかにしてまいります。	
9	-	-	非常に良い取り組みだと思えます。トップダウンとボトムアップの双方が必要かと思われませんが、是非実現に向けて突き進んでください。目標を掲げるとともに、全庁的なチェンジマネジメントも重要になるかと思えます。他自治体での事例に限らず、民間企業でも活かせる事例もあると思われしますので、ご検討されては如何でしょうか。	【ご意見ありがとうございます。今後の取組の参考にさせていただきます。】 トップダウンによる確かな意思決定と、ボトムアップによる多様な職員の想いやアイデアなどの活用により、総合計画の実現に向けて着実に取り組んでまいります。また、頂いたご意見を踏まえ、他自治体のみならず、民間企業の経営手法など、広く調査・研究を行いながら、今後具体的な取組を行動計画として策定し、取り組んでまいります。		